

全校朝会（鳥）

2019. 4. 17

6年生に、「29年度のめあて」を聞きました。

高田馬場は都会なのに、けっこういろいろな種類の鳥を見かけます。鳥も水を飲むので、神田川が流れていることが関係しているのかもしれませんが。学校のそばには、毎朝たくさんの鳥がやってくる家もあります。庭に鳥の好きな木の実がたくさんある家です。どんな鳥がやってきているでしょう。

観察してみたら、スズメやカラスはもちろんですが、前にお話ししたメジロやシジュウカラ、オナガ、ムクドリ、セキレイ、ウグイス、ヒヨドリ、ホオジロ、カワセミ、サギなど、すごくたくさんの種類の鳥が来ていることが分かりました。

スズメは、日本ではどこでもよく見られ、親しまれています。草の実や麦や米、人がくれるパン、虫などを食べるので、人の住んでいるところに巣を作る鳥です。鳴き声がかわいらしくてチュンチュンとかチュリ、チュと鳴きます。お話にもよく出てきます。「舌切り雀」はよく知られていますが「すずめひょうたん」や「腰折れすずめ」というお話もあります。私はルース・エインワースというイギリスの人が書いて石井桃子さんが日本語に訳した「こすずめのぼうけん」が好きです。お母さんに飛び方を教わったこすずめが、ちょっとだけ飛べるようになり、これならもう世界中に行くことができると思い違いをしてしまい、お母さんのところに戻らずに飛んでいってしまうところからお話が始まります。でも、途中で疲れてしまって休みたくなります。羽も痛い。頭も痛くなります。あたりも暗くなってきます。でも、カラスに「おまえ、カァカァって言えるかね。」と言われても「山鳩に「おまえ、クウクウって言えるかね。」と言われても「フクロウに「おまえ、ホウホウって言えるかね。」と言われても、「いいえ、ぼく、ちゅん、ちゅん、ちゅんってきり、言えないんです。」と言うと、「じゃあ、入れてやれない、休ませてやれないね。仲間じゃない。」と断られてしまうのです。もうだめだと思っているところに一羽の鳥がやってくるのが見えたので、「ぼく、あなたの仲間でしょうか。ぼく、ちゅん、ちゅん、ちゅんってきり、言えないんですけれど。」と言うと、それはお母さん雀で「もちろんですよ。わたしはおまえのお母さんじゃないの。」と言われ、お母さんの背中におぶさって巣に戻るお話です。

シートン動物記の中には、カナリアのように美しい声で鳴くことのできる「スズメのランディ」の話も載っています。

雀の他にも、シジュウカラも人によくなれていて、庭に餌を置く台を作ってそこに実や種を置いておくと、やってきて食べてくれます。頭が黒くて首の後ろが黄色のかわいい鳥です。ヒヨドリは、花の蜜や果物が大好きです。ヒヨヒヨという鳴き声なのでヒヨドリと言われるようになったという人もいます。

カワセミは、魚を餌にしています。私は、神田川の近くで見かけました。スズメと同じくらい小さな鳥ですが、青とオレンジの美しい羽を持つ鳥です。

西友の坂を下りたところでは、セキレイを見ました。尾羽が長くそれを振りながら歩く姿がとてもかわいいです。セキレイも水辺で見かけることが多いです。

みなさんも、見かけた鳥があったら今度教えてください。お気に入りの鳥があったらそれも教えてください。

さて、昨日は、アトムクリーン大作戦がありました。参加してくれた人、ありがとうございます。ちょっと暑くて、途中から汗をかいてしまいましたが、たくさんゴミをとることができました。これからも、自分たちの町ですから、自分たちできれいにしていくことができるといいと思います。そして、大人に言われてやるだけではなくて、自分たちで考えて大人にやってもらうことができると、もっとすてきななと思います。